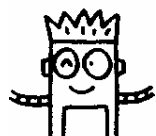


やまたいこく 邪馬台国は、どこにあったの



どこにあったかわからなくて、^{きないせつ}畿内説と北九州説
が対立しているんだよ。

「^{ぎしわじんてん}魏志倭人伝」に、邪馬台国までの道のりが書いてある

邪馬台国について書かれている史料は、紀元280～290年ごろに中国で書かれた歴史書「三国志」の中の、「魏志倭人伝」です。この中に、^{ちょうせんはんとう}朝鮮半島から、^{つし}対馬国・^{いぎこく}一支国・^{まつこく}末ろ国・^{いとこく}伊都国・^{なこく}奴国・^{ふみこく}不弥国・^{とうまこく}投馬国を経て、邪馬台国に至る道のりが書いてあります。しかし、この道のりの方角やきより・日数に疑わしいものがあることなどから、邪馬台国の位置が、いまだにわからないのです。

昔は、^{ひみこ}卑弥呼は^{じんぐうこうごう}神功皇后と同一人物であるとされた

奈良時代から江戸時代まで、^{きぞく}貴族や知識人の間では、卑弥呼は神功皇后（伝説上の第14代^{ちゅうあいてんのう}仲哀天皇の皇后）と、同一人物と見なされていました。そのため、邪馬台国は^{やまとのくに}大和国（奈良県）のことである、と考えるのがふつうでした。しかし、江戸時代の学者の^{もとおりのりなが}本居宣長は、「魏志倭人伝」を研究し、邪馬台国は九州にあったという説をとえ、それ以後は、九州説が有力になりました。

今は、北九州説と畿内説が対立している

明治時代の終わりごろから、邪馬台国の研究がさかんになるとともに、大和国にあったとする^{はげ}畿内説をとる学者と、北九州説をとる学者との間で、激しい論争が始まりました。北九州説には、邪馬台国の位置を、^{ちくごのくにやまごくん}筑後国山門郡（福岡県）とする説、^{ひごのくにきくちくんやまごう}肥後国菊池郡山門郷（熊本県）とする説、^{ぶぜんのかくにうさくん}豊前国宇佐郡（大分県）とする説などがあります。また、畿内説にも、大和国とする説ばかりでなく、^{やましろうのくに}山城国（京都府）あたりとする説があります。

奈良県桜井市の箸墓（はしはか）古墳が卑弥呼の墓、という説もあるよ。



ことばの意味 畿内 王の住む都を中心とする地域。